

若松公民館だより

千葉市若葉区若松町2117番地の2 電話 043-231-7991
本紙は若松中、小倉小、若松小、若松台小に配布しています。



若松公民館
ホームページ

昨年、1月1日に石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する大地震により、建物の倒壊や津波の被害、輪島での大火災などで470名以上の犠牲者を出したことは記憶に新しいかと思えます。また、翌日2日には羽田空港で、能登地震の支援に向かおうとしていた海上保安庁の航空機が日航機と衝突して両機が炎上した事故の映像がテレビから流れ、衝撃を覚えた年明けでした。

今年は冬らしい天候が続いて、関東では天候にも恵まれて穏やかな年明けを迎えたなと思っていたのですが、インフルエンザのニュースが毎日報道されています。検査キットや薬剤の不足を心配する声も上がっています。千葉県では12月25日に「インフルエンザ警報」を発令し、予防対策を徹底するように注意を促しています。コロナ禍にはうがいや手洗い、消毒やマスクの着用などを行っていたため、インフルエンザはごく一部でしか見られなかったのですが、同様の対策をとることが必要だと思えます。当館では今までどおり消毒液の用意をしていますので、積極的にご活用ください。

さて、利用者の高齢化に伴うサークル活動の衰退や解散による身近な学びの場の減少という多くの公民館が抱えている課題に対して当館では今年度も様々な取組を行ってきました。残念ながら抽選となって参加いただくことができなかった催事もありましたので、来年度はより多くの方が参加できるような工夫をとりつつ「地域の知の拠点」となるべく計画しています。また、何かやってみたいとかスキルアップをお考えの方は、公民館においでください。自分で仲間と新たなサークルを立ち上げることも可能です。そのやる気のお手伝いをさせていただきたいと思えます。

最後になりますが、若松公民館には図書室も併設されており、新たな蔵書を購入しています。市の図書館や他の公民館図書室に収蔵されている本を当館で借りることもできます。地域に根差した社会教育施設ですので、お気軽にご利用いただきたいと思います。

2025 若松公民館長 伊藤 直樹

若松公民館クラブ等連絡協議会主催

「第41回文化祭」開催！

10月5日(土)、小幡新会長(体操サークル)の挨拶で文化祭が開幕しました。文化祭は「日頃の学習の成果を地域に還元する」ことを目的に、若松公民館を利用するサークルの有志からなる「若松公民館クラブ等連絡協議会」が主催するもので、公民館は後援という形でサポートしています。学校行事の都合で、若松中学校の吹奏楽部の出演は残念ながら見送られましたが、「千葉市心身障がい者ワークホームたけのこ」によるハンドベルの演奏が開会式に彩りを加えました。今年は7団体(坂月川愛好会・泉墨会・遊の会・パッチワークキルト・書楽会・ラタンの会・ローゼルの会)が出展し、7団体(らくらくヨーガ・体操サークル・若松マジック・若松混声合唱・若松太極拳・若松一翠会・水曜囲碁会)が実技発表をしました。

4月から会に加入したパッチワークキルトの作品は美しく、来場者に丁寧に説明する姿が印象的でした。また、坂月川愛好会は川の上空をドローンで撮影した映像を披露し、



驚きと感動を与えました。今年は小幡会長の働きかけで、展示の設営を簡略化したり、学習の成果を披露できなかった団体にも声をかけ駐車場の整理や受付を当番制にするなど運営方法の見直しがありました。ご苦労も多かったと想像しますが、これからの会のあり方を提案する素晴らしい機会になったのではないのでしょうか。

文化祭の開催に尽力された役員の皆様

体操サークル・早苗さん/こどもの Kai UliUli らぼ・靖子さん/ラタンの会・君子さん/若松混声合唱団・千秋さん/ローゼルの会・まゆみさん

4〜11月の公民館講座報告

自分の可能性を発見!

パッチワークキルト体験会

パッチワークキルトサークルは、地域の方の要望を受け、公民館がコーディネートして発足した会です。キルト歴二十年の菅原由美子先生の一人一人の技量や好みに合わせた指導のもと3人の会員が研鑽を積んでいます。今回、40〜60代の参加者がニンパッチとヘキサゴンというデザインを学び、4人の方が入会してくださいました。活動がさらに華やいています。

夏休みの宿題と思い出は 若松公民館にお任せ!

今年の夏は、「スクラッチ入門〜基礎編〜」からスタート。3〜6年生の8人が授業にも取り入れられているプログラミングを体験しました。／千葉市科学館出張科学イベントでは、30人の小学生が重曹とクエン酸で発泡入浴剤を

作りました。／コープみらい

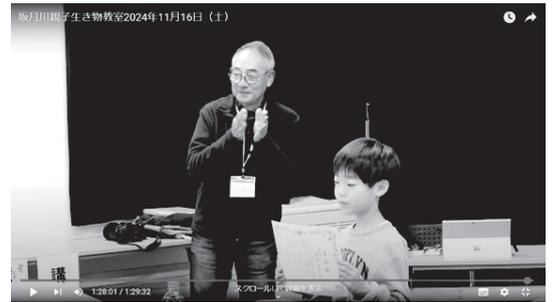
の出前授業は、牛乳パックを材料に和紙のような質感のハガキを作りました。

子育てサークルなどで絵本の読み聞かせをしている馬場恭子さんを講師に迎え、親子工作教室を開催しました。

この講座は多世代交流を目指したもので、公民館を利用する50〜80代の4人に運営サポーターとしてご協力いただきました。自分で描いた絵をスタンプにできるワークキットと、まほうのチョーク「キットパス」を使い、布バッグをカラフルに色付けしました。／今年で



キットパスはお米を原料とする絵具で、アイロンをあてると布に定着するため色が落ちにくくなります。製造会社は障がい者の雇用において評価され、その取り組みが小説化やドラマ化され、近年再注目されています。



11月の最終回では、3回の座学と5回の観察会に出席したUさん（3年生）とご家族が皆勤賞として表彰されました。1年生のときから継続して参加してくれているUさんの成長は、愛好会の皆さんにとって活動の励みになっているようです。（最終回は欠席者に対して録画配信しました。）

6回目の「坂月川親子生き物教室」には12組27人の親子

ハーブで心と体を整えよう

ハーバルセラピストの洋香さんを講師にメデイカルハーブワークショップ（11月3・10日）を初開催しました。フェイシャルスチム体験とバスソルト作りのほか、乾燥等の季節の悩みにあわせたブレンドティの試飲や、ハーブティの入れ



方についての話も大好評でした。

が参加しました。長年、川の保全に努める坂月川愛好会のサポートのもと、ホタルの観察会や水生生物調査、外来植物のアレチウリの駆除を体験することで、身近な自然について知る機会となりました。

★★★★★★★★★★★★★★
地域の方、企業様のご協力のもと、今年も無事に夏休みのプログラムを終えることができました。深く感謝申し上げます。

親子・緑組養育支援団体 COCOPORTA

8月12日に親子のアートワークショップを開催しました。ココポルタさんとの出会いは、1年前に千葉市生涯学習センターのロビーで開かれていた「知ってほしいな、里親制度」というパネル展でした。テレビや電車の広告などで「里親」という言葉を目にする機会も増えていきましたが、お話をうかがい、自分の知識の浅さを知り、地域の方と情報を共有したいと思っていました。突然のオフアワーを快く受けてくださり、「若松公民館」にあわせて講座を作ってくださいましたココポルタさんには深く感謝申し上げます。当日の様子は、ココポルタさんがインターネットのnoteに丁寧にレポートしてくださいっています。

図書室を利用する小さなお子さんとの交流は、とても楽しいものです。2歳の誕生日をむかえ一気に言葉があふれだした子、水槽の世話をする館長を「園長」と呼ぶ生き物博士、観察力が鋭く公民館の変化によく気づいてくれる子。そんなお子さんのご家族は素敵なお方ばかりで、事業を企画する上でヒントをくれます。保育園や小学校に通う年頃になると会う機会が少なくなってしまうことが寂しいのですが、公民館はいつでもウエルカムです。（中村）